

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』連載第3回

これが革マル派の運転士狩りだ！

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

<週刊現代2006年7月31日発売号>

言葉の暴力で病気になった

自らを「革マル派」と名乗り、同僚を恫喝するJR東労組組合員。もはや常軌を逸しているといしか言いようがない。Y氏をこう恫喝した組合員もいたという。「直接手を出すと、お前みたいな奴はすぐ裁判沙汰にするからな、直接手は出さないが、東労組には“言葉の暴力”があるんだよ」Y氏が続ける。「私は精神的にも肉体的にも限界でした。このままの状態、翌日も乗務すれば、間違いなく事故を起こすと思ったので、'01年1月、4日間の休みをとりました」

2月に入ってもY氏に対するJR東労組組合員による“言葉の暴力”は続き、ついに組合脱退に追い込まれることになる。「もちろん組合は辞めたくありませんでした。『JR東労組(組合員)にあらざれば、人(社員)にあらず』というのがJR東日本の“常識”ですから。しかし私はもう限界でした。一部の過激な組合員は執拗に糾弾してきました。1月の時と同様に『臨時職場集会』という名目で、2月13～16日の4日間、午前、午後と、私を吊るし上げる集会が計7回開かれたのです。

私が仕方なく『組合を辞めます』というと、『組合を辞めることは、組合の成果をかすめとることだぞ』、『ボーナスは組合が勝ち取ったものだ、返上しろ』、『組合のお陰で、主任になったことをどう考えてるんだ』と、あらん限りの罵声を浴びせられました。2月28日、ついに私は(JR東労組の)脱退届を書いたのです」(Y氏)

しかし前号でレポートした元運転士・佐藤さんのケースも同様だったが、JR東労組の嫌がらせは、組合を脱退した後のほうが、よりエスカレートするのだ。「3月に入っても嫌がらせは続きました。さすがに精神的に参ったので、1ヵ月ほど会社を休みました。

4月に入って私は乗務から外され、内勤になりました。しかし内勤になってもまだ、私の机のところまで来て、『働けないんなら、辞めろよ』と言ってくる組合員もいました。乗務から降りてもなお、彼らに嫌がらせを受け続けたことで、体調に異常をきたし、带状疱疹たいじょうほうしんまで出てきました。

何とか転勤させて欲しいと区長に相談し、区長も(JR東日本)大宮支社に掛け合ってくれたんですが、大宮支社の答えは『個人的な理由で転勤させるわけにはいかない』という主旨のものでした。私の忍耐は限界を超えていました。

それで私は、7月31日付で会社を辞めることにしたのです」(Y氏)